

書 評

聞書★「星の文人伝」『野尻抱影』

石田五郎 著 (リグロポート社)

(定価 1545 円, 368 頁, 発行日 '89.9.5)

著者石田五郎は当代随一の文化人である。「石田さんは間違えて天文学者になった。」というのは口さがない女性どもの言であるが、私も大学の同級で入学して以来、フランス文学、ドイツ文学、日本文学、音楽、歌舞伎、仏教美術等にさまざまな文芸の手ほどきをしてもらった。野尻抱影は明治・大正・昭和を通じて星空のロマンに身を投じ、これを一つの文化にまで育成した大御所(開祖)である。野尻と石田は、生まれは明治と大正、生地も横浜の中区英町と東京の上野御徒町とずれてはいるが何がしか共通のものがある。また、この書には表題が二つあるが、実は著者も二人いて(勿論石田と野尻の二人)、この二人が生まれた日時と場所のちがいに少し違った角度から同じ基盤に立ってステレオグラフィックに、科学と文学、西欧と日本、ギリシヤ神話と奈良の石仏、会津八一と萩原雄祐、そして何よりも野尻抱影と石田五郎を包む世界を浜っ子と江戸っ子の粋をつくして書き上げたものなのである。第一話ハマ生れ、ハマ育ち、第二話早稲田の杜、第三話阿斐ヶ根のふもと、は明治末期の文明開化のロマンに満ちた野尻の少年から青年時代を浮き彫りにしている。この辺りは、かつてカロ

サの「戦争日記」をもしのぐ「天文台日記」をものにした石田にしてよくなし得る文学であって、私が審査委員なら芥川賞に推薦したいところである。第四話以降は抱影の業績と人柄をオリオン座やカノープスにまつわる因縁話から始まって星名の民俗学、プラネタリウム、末弟大佛次郎などの逸話の数々を通じて華麗である。終章に近く抱影と二世天文屋を名乗る石田(一世は野尻抱影の意か)との交歓がある。春日山裏の岩に刻された妙見菩薩像の北斗の同定の労をとり、また抱影得意の地口に意気の合った反応を示した石田に対し、気位の高い抱影が自らの後継者を見出して気を許して行くくだりは人生の深い因縁をさえ感じさせる。これは、星の好きな人には感動を与えずにはおかない名著である。天文少年かつて天文少年であった人々に一読をおすすめしたい。

(海野和三郎)

* * *

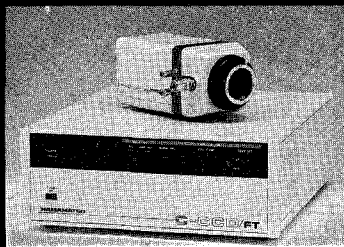
訃 報

本会元副理事長の 能田忠亮氏 には、かねて病氣療養中のところ、去る 10 月 11 日午前 1 時 58 分に大原記念病院(京都市左京区)において逝去されました。享年 88 歳。
謹んでご冥福をお祈りするとともに会員諸氏にお知らせ致します。

HAMAMATSU

まっ暗なのにくっきり!

M51 星雲



100万画素(1000画素×1018画素)の超高解像度を実現!

SITカメラを大幅に上回る超高感度に加え

超高解像度 冷却型CCDカメラC3640

C3100は、一般のテレビカメラでは映し出すことができない暗い星雲などの撮影を目的に開発された超高感度+超高解像度CCDカメラです。電子冷却方式によるノイズの削減により高い感度をもたらし、100万画素フレームトランスファー型CCDの採用により超高解像度を実現しました。

特長

読み出しノイズが15electron以下の低ノイズ
1:4000以上の高ダイナミックレンジ
0.01秒~1時間までの長時間露光が可能、
ピンニング、部分スキャンなどの特殊走査が可能

浜松ホトニクス株式会社

システム営業部 〒430 浜松市砂山町325-6
☎(0534)52-2141(代表) ファックス(0534)52-2139